

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2016年5月

2015年度 電気材料安全・規格委員会活動報告

1. 本委員会活動

電気製品の安全性と信頼性確保におけるプラスチックの果たす役割の重要性が増す環境下、危険性及びハザードを適切に評価するために IEC 規格、UL 規格、電気用品安全法に係わる国内外の規格の制定・改訂におけるプラスチック材料の設計・評価・用途などの密接な関係維持を目標に、当委員会の活動を実施してきた。

関連する国際会議、国内委員会、ミーティングに出席・参画しての情報収集及びプラスチック業界の意向の反映のため、当委員会から委員を派遣して活動を進めた。加えて、電気用品部品・材料認証協議会等の関連団体との交流を実施し、活動状況の情報交換や相互理解を深めた。

2. トピックス

2.1 電気用品部品・材料認証協議会（CMJ）関係

- 1) 『電気用品安全法の技術規準解釈通達の一部改正』（平成 27 年 7 月 24 日付）により、電気用品の事故の未然・再発防止への対応の観点からの要求事項として、「コンセント等の金属接触部の過熱対策」「観賞魚用ヒーターの過熱対策」「プリント基板の難燃化」が加わった。コンセント等には延長コードセットの栓刃可動形プラグも加わった。
- 2) 材料の「耐トラッキング性（CTI）」「グローワイヤ」での CMJ 登録数は 2016 年 2 月時点で 16 件および 21 件となった。
- 3) CRT 登録モデル数が 0 件となったことから、今後はウォッチしないこととなった。
- 4) 0.1mm ビカット軟化温度の JIS 改正（2016 年 3 月公示）として、新たな試験媒体の種類として流動床が追加されるが、実質上は特に問題ないことを確認した。

2.2 （一社）電子情報技術産業協会（JEITA）との連携

電気製品の安全や電気用途向け材料に関する案件を JEITA と共同で幅広く取り上げ、情報交換と意見交換を実施した。

2.3 IEC 関係

1) IEC/TC 89 :

5 月に東京、11 月シスタ（スウェーデン）にて国際会議が開催された。予混試験炎、最終製品のグローワイヤ着火試験、ホットコイル製品試験、ホットワイヤ試験、着火性・燃焼性関連について審議が進められた。次期議長には国内委員会推薦の米国 George Fechtmann 氏が選出される見通しとなった。

国内審議団体については、2016 年度は日本規格協会が運営する。2017 年度以降も日本規格協会が事務局を継続するが、具体的な運営方法については単年度毎に見直が行われる。

2) IEC/TC 108 :

「TVセットのろうそくもらい火試験のISO化」(594/CDV、595/CDV)に関しプラ工連からは「反対」で投票。日本としても反対、国際投票でも反対多数で却下となった。

3) IEC/TC 111 :

111/382/PAS、111/383A/NP 「ローハロゲンの定義」について、国内委員会としては背景が不明確である理由にて棄権した。本委員会からは意見募集時に反対意見を紹介。国際投票では賛成が過半数を占め、最終的に決める必要ありとの結論になった。2016年1月に国内委員会よりローハロゲンWG委員募集があり、本委員会からは正、副委員を登録して取り組む。

4) IEC/TC 112 :

JIS原案作成委員会にてJIS C 60695-10-2:ボールプレッシャ試験とJIS C 60695-11-20:500W燃焼試験のJIS化がなされた。

以上